

会

報

社団法人日本病理学会

第 168 号

平成 13 年 (2001 年) 10 月刊

役員候補者の抱負について

常任理事会に以前から、“第一段投票の結果、役員候補者に選ばれた方々の役員になるにあたっての抱負を是非知りたい”という意見が多数寄せられてまいりました。また、選挙管理委員会からの助言もあり、本年11月の秋期特別総会（於 東京）当日に行われる直接選挙選出理事候補者の抱負を日本病理学会ホームページに載せています。ホームページ (<http://jsp.umin.ac.jp>) を是非ご覧いただきたくお願いいたします。

社団法人日本病理学会

理 事 長 秦 順一
選挙管理委員長 岡安 勲

お知らせ

1. 第 120 回日本医学会シンポジウム「血管新生の基礎と臨床」について

会 期：平成 13 年 12 月 13 日
会 場：日本医師会館 大講堂
連絡先：日本医師会館内
〒 113-8621 文京区本駒込 2-28-16
TEL 03-3946-2121

2. 千里ライフサイエンスセミナーについて

(1) 「自然免疫と獲得免疫のクロストーク」
会 期：平成 14 年 1 月 29 日
会 場：千里ライフサイエンスセンター
(2) 「ゲノム医科学の新局面」
会 期：平成 14 年 2 月 8 日
会 場：千里ライフサイエンスセンター
(1), (2) とも
連絡先：(財) 千里ライフサイエンス振興財団セミナー係

〒 560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル
TEL 06-6873-2001 FAX 06-6873-2002

3. 日中国交正常化 30 周年記念日中医学大会 2002 について

会 期：平成 14 年 11 月 3 日～6 日
会 場：北京国際会議センター
連絡先：(財) 日中医学協会
〒 101-0053 千代田区神田美土代町 11-2
TEL 03-3291-9161 FAX 03-3291-9164

訂正とお詫び

日本病理剖検輯報第 42 輯巻末の、日本病理学会認定病院平成 11 年年報 (別冊とも) に誤りがありましたので、お知らせいたします。

認定病院番号 3054 東京都済生会中央病院の研修指導責任者名 折笠英紀先生は森永正二郎先生の誤りです。訂正してお詫びいたします。

なお、平成 12 年からの研修指導責任者は山崎一人先生です。

日本医学会だより

JAMS News

2001年10月 No. 26

日本医学会

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16

日本医師会館内 TEL 03-3946-2121(代)

第26回日本医学会総会

第26回日本医学会総会(杉岡洋一會頭)は、2003年4月4日(金)～6日(日)、福岡での開催に向けて準備を進めており、総会登録を2002年1月から開始の予定である。

この度、総会展示の会期が4月2日(水)～4月8日(火)に変更決定した。展示会場は福岡ドームで、その内容としては「すこやかメッセ2003—社会が育てる医学と医療」をメインテーマとする市民向けの公開展示ならびに専門家向けの学術展示による2部構成を企画している。

公開展示は、「みんなで創る健康社会」を目標として、人間を科学する、支え合う暮らし、共生の未来へ、と題する3つのゾーンから構成される。

学術展示は、「テクノロジーの医学応用の可能性と選択」をテーマに、画像医療システム展示、医科機器展示・医療情報システム展示、医書展示の三者が企画されている。

第3回日本医学会特別シンポジウム

2001年9月6日～7日、札幌プリンスホテルにおいて「医とゲノム」が開催された。組織委員は、廣重 力(北海道医療大学学長)、大石道夫(かずさDNA研究所所長)、中村睦男(北海道大学総長)、崎山幸雄(北海道大学大学院医学研究科客員教授)、本間研一(北海道大学大学院医学研究科教授)の各氏であった。

プログラムは、基調講演：ヒトゲノム科学の現在と未来、I. ヒトゲノム解析の最前線(1)、II. ヒトゲノム解析の最前線(2)、III. ヒトゲノム解明と価値観の変容をもって構成された。

シンポジウムの詳細は、記録集として2002年2月頃に刊行される予定である。希望者は、日本医学会宛、郵便はがきで申し込またい(無料)。

第120回日本医学会シンポジウム

2001年12月13日(木)10:00～17:00、日本医師会館において「血管新生の基礎と臨床」をテーマに第120回シンポジウムが開催される。組織委員は、永井良三、須田年生、澁谷正史の各氏。参加希望者は、日本医学会に郵便はがきで申し込またい。参加費無料。

プログラムの概要は下記のとおり。

I. 血管新生の分子制御機構

1. 血管リモデリングの細胞生物学/西川伸一(京大・分子遺伝学)
2. 動静脈形成の制御機構/須田年生(熊本大発生研センター)
3. 血管新生の転写調節/佐藤靖史(東北大加齢研・腫瘍循環)
4. 造血と血管新生の相互作用/高倉伸幸(金沢大がん研・細胞分化)

II. 血管新生と腫瘍

1. VEGF(血管内皮増殖因子)と腫瘍の進展/澁谷正史(東大医科研・癌細胞増殖)
2. 血管新生とマトリックスメタロプロテアーゼ/杉田憲治(塩野義製薬(株)診断薬部)
3. 内因性血管新生抑制因子としてのコンドロモジュリン-I/開 祐司(京大再生医研・生体分子設計)
4. 浸潤・転移・血管新生阻害因子NK4に

よる制ガン/中村敏一(阪大・分子組織再生学)

III. 血管新生の臨床応用

1. 薬物による血管新生療法/佐田政隆 (東大・循環器内科)
2. 遺伝子を用いた血管新生療法/森下竜一 (阪大・遺伝子治療)
3. 細胞移植による血管新生療法/室原豊明 (久留米大・循環器病研)

医学賞・医学研究助成費の決定

医学賞・医学研究助成費選考委員会が去る9月14日に開催され、平成13年度の受賞者が決定した。授与式は11月1日の第54回日本医師会設立記念医学大会に際してとり行われる。

本選考は、日本医学会が日本医師会から委任されているもので、今年度の応募件数は医学賞21件、医学研究助成費89件であった。表彰される方々は下記のとおりである。

〈日本医師会医学賞〉

- ・糖鎖と糖鎖遺伝子の新しい機能の発見/谷口直之 (阪大院・分子生物学)
- ・動脈硬化性心血管病の病態解明/竹下 彰(九大院心臓血管研・内科)
- ・輸血後移植片対宿主病(輸血後GVHD)に関する研究/十字猛夫 (日赤血液センター・輸血学)

〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・全身性エリテマトーデスの発症に関わる遺伝素因の解明/広瀬幸子 (順天堂大・病理学)
- ・転写因子遺伝子を用いた幹細胞のインスリン産生細胞分化/倭 英司(阪大院・分子防御医学)
- ・インスリン抵抗性に関わる新規な脂肪組織特異的遺伝子の同定とその機能解析/小川 渉 (神戸大・内科学)
- ・チミジンホスホリラーゼの血管新生、浸潤、転移への関与とその阻害方法の開発/秋山伸一 (鹿児島大腫瘍研・がん化学療法)
- ・アジア巨大都市化の影響下にある日本の新たな

社会医学課題の系統的解析手法の開発/高野健人 (東医歯大院・健康推進医学)

- ・造血器腫瘍に対する新たな免疫遺伝子治療の開発/安川正貴 (愛媛大・内科学)
- ・心不全の再生治療/小室一成(千葉大院・内科学)
- ・インスリンおよび運動による糖代謝促進の分子メカニズムと糖尿病における異常の解明/浅野知一郎 (東大・内科学)
- ・転写統合装置を用いたリウマチ滑膜細胞の包括的理解/中島利博(聖マ医大難研センター・内科学)
- ・Desert Hedgehog (DHH) 遺伝子変異による新しい遺伝性末梢神経障害の病態解明/梅原藤雄 (鹿児島大・内科学)
- ・難治性疼痛(求心路遮断痛)に対する大脳運動野刺激療法メカニズム解析/齋藤洋一(阪大院・脳神経外科学)
- ・家族性乳癌の遺伝子診断とその臨床応用/野口眞三郎 (阪大バイオ研・腫瘍外科学)
- ・骨髄由来細胞による肝再生の機序とその制御に関する研究/長谷川 潔 (東大・外科学)
- ・尿失禁の症状尺度と疾患特異的なQOL尺度の開発/本間之夫 (東大・泌尿器科学)
- ・卵巣機能不全の病因・病態の解明と予防に関する研究/森田 豊 (東大・産科婦人科学)

認定医制についての三者懇談会

第25回認定医制についての三者懇談会が9月10日に開催された。そこでは機構改革後の専門医認定協議会としては初めての三者承認(10月1日付)のための「承認通知書」、「三者承認シール」が検討された。

また、専門医認定協議会から「専門医認定制に関する基本方針」が提出され、専門医認定協議会の役割、活動が説明された。また平成5年11月の「認定医の公認に関する三者懇談会の見解」は、その後変化に伴う名称訂正などを加えたのち、その基本精神は遵守することが確認された。